

Title

Paper containing adsorbents
 Patent Assignee
 Polystrap A.-G., Switz.
 Publication Source
 Jpn, Kokai Tokkyo Koho, 3 pp.

Identifier-CODEN

JKXXAF

Patent Information

PATENT NO.	KIND	DATE	APPLICATION NO.	DATE
JP 53006611	AZ	19780121	JP 1976-81424	19760708 <--

Priority Application Information

JP 1976-81424 A 19760708

Abstract

A mixt. of 60 L H₂O, 1000 g cellulose pulp, and 50 g sepiolite [16601-74-3] (1-8. mu.) was mixed with alum and used to prep. filter paper for coffee, cigarettes, etc.

International Patent Classification

D21H005-22

IPC Initial Classification

D21H005-22; D21H003-78

Document Type

Patent

Language

Japanese

Supplementary Indexing

sepiolite adsorbent filter paper; coffee filter paper; cigarette filter paper

IT Related Fields

Indexing

Concept Group

Concept Heading

Filter paper

Text Modification

(absorbent, contg. sepiolite)

IT Related Fields

Indexing

Concept Group

Concept Heading

Coffees

Text Modification

(filter paper for, contg. sepiolite)

IT Related Fields

Indexing

Concept Group

Concept Heading

Tobacco smoke and smoking

Text Modification

(filters for, contg. sepiolite)

IT Related Fields

Indexing

Registry Number and Structure

CAS Registry Number

53890-37-2

Role

USES (Uses)

Text Modification

(in absorbent filter paper)

Accession Number

1978;461301 CAPLUS

Document Number

89:61301

①日本国特許庁
公開特許公報

②特許出願公開
昭53-6611

③Int. Cl.
D 21 H 5/22
D 21 H 5/78

④日本分類
39 D 22
39 B 2
12(8) F 2
72 C 340.11

官内整理番号
7107-47
7107-47
6939-4A
7308-33

⑤公開 昭和53年(1978)1月21日
発明の数 4
審査請求 有

(全 3 頁)

⑥吸着物質含有紙とその製造方法

⑦特 許 昭51-81424
⑧出 願 昭51(1976)7月8日
⑨発 明 者 アントイン・アルゾー
スイス國ポンコウルト・シエ
ツテー2026ボメラツスードツ
・シユス
同 士ニック・ベリンガー
フランス國サント・ロウイ

・ルーエアレギザンダル・ラ
ウリイ2

⑩発 明 者 ポール・バツタマン
スイス國バーゼル・ビアシグス
トラツセ26

⑪出 願 人 ボリステレブ・アクチエンゲゼ
ルシヤフト
スイス國バーゼル・シエツチ
一4010ガラートシユトラツセ18

⑫代 理 人 永理士 奈良武

第 一 級

1. 発明の名称

吸着物質含有紙とその製造方法

2. 発明の概要

①本発明は、吸着物質を含む紙を含むことを特徴とする吸着物質含有紙。

②紙を作るための液をしたペルグやド、溶剤石鹼水を注入洗浄し、しかる後これを吸着手段によつて吸着して紙を製造することを特徴とする吸着物質含有紙の製造方法。

③紙を作るために液をしたペルグを生成し、これを更に予備洗浄して後、このペルグ上に溶剤石鹼水を注入洗浄すれば圧縮しあるいは膨脹及び溶解し、しかる後これを吸着的に吸着し、固化して紙を生成するこうにし。その後、該溶剤石鹼水が予め蒸留せた液体水分子とつて表面的に覆われるようになるとを特徴とする吸着物質含有紙の製造方法。

④紙を作るために液をしたペルグ中に使用すべき溶剤石鹼水の一部を注入洗浄し、更にとのペル

グを生成し、更に予備洗浄して後、これの上に該溶剤石鹼水の液体分子を含めた紙を生成し、しかしる後これを吸着的に吸着、固化して紙を製造することを特徴とする吸着物質含有紙の製造方法。

⑤本発明の製造法は、紙から紙を除までのいずれかに記載の吸着物質含有紙がマトリック紙玉紀者から放出する内部の多孔状構造を吸着紙として用いたことを特徴とする吸着物質含有紙。

⑥本発明の製造法は、紙から紙を除までのいずれかに記載の吸着物質含有紙が液体を吸着する能力とする内部の多孔状構造を吸着紙として用いたことを特徴とする吸着物質含有紙。

⑦本発明の製造法は、紙から紙を除までのいずれかに記載の吸着物質含有紙が、液体を吸着する能力とする内部の多孔状構造を吸着紙として用いたことを特徴とする吸着物質含有紙。

⑧本発明の製造法は、紙から紙を除までのいずれかに記載の吸着物質含有紙が、この紙の金属

蒸気を発現化して、これで溶ける高分子物質の割合を5～20%程度とすることを香味とする液体香料である。

3. 香料の作用を説明

香料は既にあり、それ使用した後、液体を含むした液体香料を高分子物質を含有する液体香料として液体香料あるいは液体香料または液体状の液体を含有するための液体として液体香料を有する形を発現しようとするものである。

この形状の液体香料として使用されてかきしめ、あらすじを液体または液体が反応するかまたは液体を吸収しておらず、その液体または液体から、液体香料分子が付着することによって分子または分子群を液体抽出する。そして液体が残すたゞに抽出された液体をまた液体として擴大される。

従来、この形状の中で、ホールドバイルターやの液体香料としては、液体香料として液体香料が溶入されたりがダイヤモンドルーラー等の香料によ

つて知られている。

一般的には多くの場合に香味を平均して含有するところの液体香料や分子群と対応した場合、液体の液体分子や分子群が液体に対して香味である。特に、入浴料としてそれらが液体香料や液体香料あるいは何か別の液体を経て液体香料入りの時香味であることは知られている。

それゆえ、香味作用が増大する場合、液体香料に対して香味を含む液体や液体香料中の液体分子や分子群の結合を強じるにとばれて液体香料ととてあり、且つ液体香料である。

又つて、本液体の液体は、前述したところ液体するあるいは液体する液体や液体から分子や分子群を吸着することを認もしくなしうるとともに液体にあら液体香料を提供することである。

本液体は、この形状を液体香料を液体香料とすることによって液体しようとするものである。

しかるに、本液体は液体香料が液体分子や分子群に対して液体を液体作用を液体的手段せずといふ手段を用意している。たゞ液体的作用は、

タメ（たまごひよこ）第三紀地層からとれる角質物質の多孔性の岩石、角質岩であり、かつてそれが液体香料として溶んで溶かされる。しかも角質岩の中でも多孔性の多孔性岩石は、田舎の農業によって分離され、そのため角質でも溶解できうるとともに、且つ角質に対して分子の液体を抽出するところのやや液体を含びた岩石の多くは、液体の液体の液体からなる液体である。液体香料はホールドバイルターで溶解されるとこれが液体の液体とよく溶解して液体を放出する。角質岩の多孔性岩石が液体ホールドバイルターを含むために溶解される場合、液体香料は、介在した液体香料が液体香料を液体とおり、しかも、もはや液体としない液体でなくなるために、より液体を液体から液体に形成される。液体としては使用されなくなる液体の液体のため、この液体は、特に液体の液体の液体を液体として液体を液体作用を有する液体した液体香料を有し、しかも液体香料からの液体として液体に入り得るために、本液体の液体

液体香料として使用される。この一層の液体香料つて液体香料の多孔性岩石をさ。これらをカムカムの液体香料として使用されることから呼ばれる液体香料が液体香料として液体されている。

本液体の液体の液体香料例えはホールドバイルターリーでは1～2.0g、なるべくは1～2.0gの液体香料を液体化した液体香料を用いると液体香料となる。

また他の液体香料を液体として、液体にして1.0～2.0g、好みしくは1～2.0gの液体香料を用いひとと水溶かし。この液体香料を液体として、液体した液体香料が液体香料のどんせを少し液体を生じることとした液体である。

本液体はホールドバイルターを用いる時によく用いられるホールドバイルターリーとして液体香料である。たぬこと、液体香料の液体のため、本液体を液体として液体香料が液体されているとともに1.0～2.0g/1gの液体を好みしくする液体の多孔性の。且つ、のうづけしてない液体が用いられる。

本液体に係る液体香料の方法によれば、液体

研磨等は、紙を作るための乾燥したペルプ中で、紙ペルプが乾燥半度にまで乾燥され、更に乾化する以前に水入操作される。この方法によつて、紙は紙被膜被膜がさわしと導込まれた状態で成形される。この紙は、例えばマークを作った場合を例とすると、さうした形状されるべき物体が乾燥箱を貫通するとところの威力アシスター紙として供給される。より高い吸着性を有する紙を所要する場合は、紙を作るためには乾燥したペルプが成形され、次に予乾燥され、そしてとの上に滑石被膜が導込まれた紙は圧縮され、あるいは膨張及び圧縮され、そのためにそれをペルプの表面水分に合わせて吸着され、そして最終的な乾燥を経じて紙の吸着性を強化の後、紙ペルプの中包含される紙被膜の結果として紙の吸着性を強化するとともに別の方法を用ひることを好む。

また、紙作成のためには乾燥したペルプを成形する前に、紙ペルプ中に使用される滑石被膜の一端を吸入操作すると共に、更に乾燥され、且つ予乾燥されたペルプ上に滑石被膜被膜の表面水分が導き

かられるか。または圧縮されるとかられ二つの方法を組合することができる。

本発明は、既つて乾燥される紙被膜被膜の多孔性滑石被膜は、多孔性被膜の一つの実用である。多孔性被膜被膜の最もよく知られている出来は、ルコカスカムセル (Lecocam cellulose) である。多孔性被膜の多孔性滑石被膜は、1:1の濃度濃度では乾燥しないが、紙力の2がそとで乾燥し、そして3:1の比例供給すると乾燥にして紙力を3:1の吸着強度を受ける。多孔性被膜の滑石被膜のタクシット含有量は被膜体に關して増加していくようやや多く、そしてそれの含有量を多くする多孔性のルコカスカムセル滑石被膜を取く。乾燥乾燥した部分において乾燥した被膜は多孔性被膜滑石被膜の様子、約1・2% / mであるが、多孔性被膜が滑石被膜では約1・3~1・5% / mである。もし滑石被膜が最終的に乾燥され、更に乾燥が気体充満場で乾燥される場合、紙質と物理の性、約1・5~2% / mが多孔性被膜多孔性滑石被膜と多孔性被膜被膜の双方で得られる。この多孔性

の紙は、吸着性を強化するためであるが、紙被膜被膜の表面を滑石に乾燥して、乾燥後ついている。ルコカスカムセルから露出する多孔性被膜被膜被膜は、吸めても乾燥して、且つ吸着であり、そのため乾燥され、紙被膜ペルプ及びその被膜被膜に施工される。これに対して、マトリックス滑石被膜は、滑石、吸着すれば干渉の結果となり、どう多孔性が低い被膜を伴なう多孔性被膜被膜を有してしまつて、そこでマトリックス滑石被膜の含水量の多孔性被膜はルコカスカムセル滑石被膜のそれよりも低い。多孔性被膜多孔性滑石被膜の大きさは乾燥温度は高く、100°C / mでも達し、しかも本題した乾燥作業条件に關しては共に適切である。

本件本発明に係る紙被膜被膜被膜の乾燥方法の一端を示す。

実験例 1

本実験例は、ルコカスカムセルを0.5%の濃度を有する。そして湿度下限とする。次に、5%の滑石被膜を滑石の均等な紙被膜ペルプ中に吸入操作する。滑石被膜は多孔性被膜のマトリックス被

被膜からなる被膜乾燥工場で得られた。しかも1~2%に組合されるところの最終的に乾燥化される残余材料である。滑石を用いて、滑石ペルプはペーパー化される。しかし紙、紙被膜被膜を1~2% / mの濃度を有するゲートで乾燥される。

以上のような乾燥な乾燥方法によつて乾燥された。本発明の被膜被膜被膜は、被膜化した。また本件被膜化してんが供給したり、離れたドリードの被膜被膜を増加し、例えば、乾燥したマークの強度、吸着、吸水性、溶原吸着性、タバコ、調味料等の被膜被膜として最も被膜を有する被膜被膜被膜作用を強調し、人間の生活面における一大利点を有するものである。

発明者署名
ジョン・アラン・アダムソン
代理人 紙被膜被膜